

The Outreach Activity about Space Development Using Free Magazine, Web, SNS and Workshop etc. : To Get Junior and Senior High School Students Interested in Universe

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-08-06 キーワード (Ja): キーワード (En): Outreach, Free magazine, Social media, Workshop, Junior and Senior high school student 作成者: 鳶村, 未来, 馬場, 亮佑, 荘司, 弘祐 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1346

宇宙を広報する ～中高生の宇宙への興味を 0 から 1 へ～

鳶村美来^{1, 2)}・馬場亮佑^{1, 3)}・荘司弘祐^{1, 4)}

¹⁾ 宇宙広報団体 TELSTAR ²⁾ 学習院大学 ³⁾ 東京電機大学 ⁴⁾ 明治大学

The Outreach Activity about Space Development Using Free Magazine, Web,
SNS and Workshop etc.
~To Get Junior and Senior High School Students Interested in Universe~

Miku SHIMAMURA^{1, 2)}, Ryosuke BABA^{1, 3)}, Kosuke SHOJI^{1, 4)}

Abstract

宇宙広報団体 TELSTAR は 2013 年に設立され、今年 2020 年で設立 8 年目を迎える学生団体だ。主な活動は宇宙フリーマガジン「TELSTAR」の制作や SNS を通した宇宙情報の発信、宇宙に関するイベントの企画・運営を行っている。これらの活動を通し、宇宙への興味を 0 から 1 にするという目標のもと、宇宙教育の一端を担っていると自負している。今回はその活動及び今後の展望について述べたい。

Key Words:

Outreach, Free magazine, Social media, Workshop, Junior and Senior high school student

1 団体理念と目標

TELSTAR は「宇宙産業を日本の基幹産業にする」を理念として掲げている。この大きな理念の実現のために私たち大学生だからこそ出来る事を模索してきた。宇宙産業を活性化するためには宇宙に関わらずとも宇宙産業への支援や報道等、関心を高めることが必要だ。そのために理解度も高く、将来の進路選択のため様々な分野に関心を抱く中高生を対象としている。理念達成の第一歩として、「中高生の宇宙への興味を 0 から 1 へ」を目標とし活動している。

2 ターゲット設定と情報発信手段の選定

宇宙への開拓には分野を問わない現在、文系理系は宇宙という空間において時代遅れのような。しかし学校教育で「宇宙」を教わるのは、決まって地学や物理といった理科の教科。テレビでは宇宙といえば、中高生には JAXA や NASA といった難しい技術情報ばかり。中高生たちが宇宙の様々な情報を得られる機会が乏しいのだ。経済的な自由度を横軸に敷

居を縦軸にとった表を示す。小学生や大学生に比べ、中高生が紙メディアや WEB メディアといった比較的身近にある媒体で、宇宙情報に触れる機会が少ないことが読み取れる。中高生に「宇宙は理系にしか無理だ。」「難しい。」といった偏った印象を抱かれても仕方がないだろう。このような現状を打破すべく TELSTAR は、身近な場所で目にし、手に取れるフリーマガジンの発行や WEB や SNS を通じて、

表 お金の自由度と敷居の関係性

		お金の自由度		
		小学生以下	中高生	大学生、大人
敷居	口伝	親から、先生から	親から、先生から、友人から	親から、先生から、友人から
	紙メディア	宇宙のとびら	ひとと、宇宙をつなぐ、TELSTAR	JAXA's, 星ナビ, Newton, 日経
	WEBメディア	使用年齢でない		Sorae.jp, アストロプレナー 宙畑
	イベント	コズミックカレッジ, Live in Space Project	きみっしょん, 種子島スペースキャンプ, Live in Space Project	オンラインミーティング, Live in Space Project, 宇宙就活



図1 スマホで楽しむ宇宙の世界 /TELSTAR vol.18



図2 星結び /TELSTAR vol.20

中高生に宇宙情報を発信している。

3 宇宙フリーマガジン「TELSTAR」

年に3回程度 12,000 部を全国の学校や科学館に配布している。「宇宙への興味を0から1へ」の実現のため、フリーマガジンでは以下の2点を重視している。

3.1. 宇宙を身近に楽しんでもらう

中高生に宇宙への興味を持ってもらうために、まず身近に感じてもらうことを考えている。読者の身近に感じるものは、人それぞれだ。歴史が好き、物語が好き、写真が好き…。読者のそんな好きと宇宙は意外にもつながっているかもしれない。そんな新たな発見によって宇宙にも関心をもってもらいたい。そのため、「宇宙×○○」をコンセプトに、宇宙と様々な分野との融合を幅広い視点で伝える冊子制作している。図1、図2では、スマホを使って星空を撮影する方法の紹介企画や、神話をスタイリッシュなイラストとともに紹介する企画を並べた。

3.2. デザイン性

私達は宇宙に関して WEB 検索をすることもない興味が0ベースの人たちに興味をもってもらうことを最大の目的としている。そのために、手に取ってもらい次のページをめくりたくなる冊子を目指し、デザイン性を大切にしている。美術大学にてデザインを専攻している学生や、紙面のデザインに興味がある団体メンバーと協力し、文章量も含め、読みやすい冊子の制作に注力している。



図3 TELSTAR がこだわる表紙

4 TELSTAR における多様な宇宙広報活動

4.1. イベントの企画運営

TELSTARではイベントの企画運営を行っている。宇宙関連イベントの出展依頼を受けたり、応募してブースを出したりしている。高校への出張授業 TELSTAR SCHOOL も企画予定だ。また、イベントの企画運営を主な活動とする TELSTAR 関西支部では毎年京都の嵐山にて行われる宙フェスへのブース出展などを行っている。

紙という媒体を通してだけでなく、イベントでは直接参加者に宇宙の魅力を伝えている。

4.2. SNS での情報発信

中高生にとって最も身近な存在となった SNS。TELSTAR では中高生に宇宙情報に触れる機会を増やしてもらうことを目的として Twitter、Facebook や Instagram で、定期的に宇宙情報を発信している。現在 Twitter は 7000 人以上のフォロワーを獲

得。中高生の間で流行している Instagram ではデザイン性を活かし、「映え」となる投稿を企画している。

4.3. TELSTAR CLUB

TELSTAR CLUB は、宇宙好きの中高生がその興味をお互い共有できる場所を作り、さらに学びを深めてもらうことを目的として、0 から 1 のその先に焦点を当てた活動だ。参加する中高生は宇宙関連機関や企業へメンバーと一緒に見学、取材を行っている。

5 今後の宇宙広報活動における課題と対策

5.1. 電子書籍によるアプローチと調査分析

紙媒体では配布数に限界がある。そこでより多くの中高生にテルスターを届けるための導入したのが、宇宙フリーマガジン「TELSTAR」の電子書籍化だ。

2018 年 11 月より実行されているが、どれくらいの人にリーチしているか分析ができていない。冊子に比べデータとして読者の動向を分析しやすいため、今後活用していきたい。

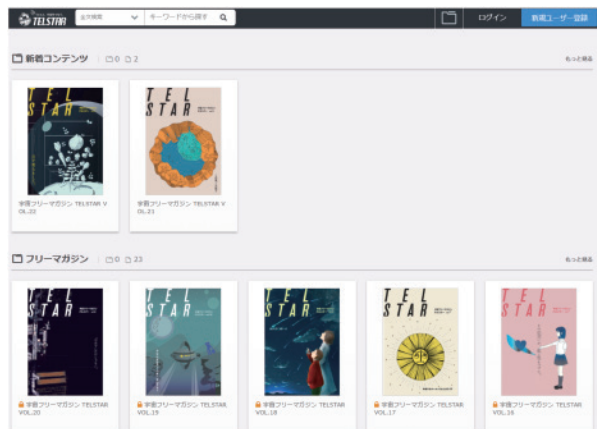


図 4 ActiBook One にて電子書籍閲覧可能

5.2. WEB・SNS の活用

WEB・SNS による情報発信対象は、既に宇宙に関心を持つ方が想定される。彼らの宇宙への興味を持続してもらうために、「0 から 1」の先にある学びを支える宇宙情報を如何に発信するかが鍵だと考える。WEB では冊子で紹介しきれない専門性や深みのあるコンテンツを提供していく。また SNS では、とりわけ写真や動画の投稿・閲覧に特化している Instagram で、フリーマガジンと同様デザインを重視したコンテンツを提供していく。

以上の媒体を用いた情報発信に注力することで、宇宙に興味がある人たちの芽を育てていく所存である。

6 おわりに

これまで中高生に宇宙の魅力を伝えきたが、今後フリーマガジンや WEB メディアによる広報について、それぞれどのような利点・欠点があるのか、どのように広報することが中高生に対して最適か検討していく必要がある。

今後日本の宇宙開発が持続的に発展して行くためには、宇宙に関わる人材が必要不可欠という見解は変わらない。宇宙に関わる人材を増やしていくため、宇宙教育という視点を持ち、今後もより発展的な活動行っていく。

謝辞

私たちの活動は多くの企業や研究者、中学校・高校の先生方、科学館の方、一口宇宙飛行士の方、宇宙教育セミナーで交流していただいた方、みなさまのご支援により成り立っております。ご協力いただいているすべての方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

～宇宙教育に携わるみなさまへ～

この度は最後まで読んでいただき誠にありがとうございます。

様々な手段で情報発信をしている弊団体のメディア及び情報発信手段がみなさまの宇宙教育活動の少しでもお役に立てれば幸いです。何かご質問・ご意見等ございましたら、space.freemgz@gmail.com にご連絡ください。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(2020 年 5 月 2 日受付、2020 年 5 月 18 日受理)